

資料15 ポジティブ・アクションとしての再就職モデル開発事業

1. 概要

再就職を希望する女性が、自己の現在の職業能力、再就職に必要な職業能力、それを身につけるための能力開発手法などを的確に把握し、実際に能力開発を行えるようにするとともに、そのようにして高い職業能力を取り戻した女性の雇用を企業に対して促進していくシステムをモデル的に実施することにより、広く一般にその成果を普及し、ひいては意欲、能力の高い再就職希望女性に関する労働市場の創出を促進することとする。

2. 趣旨

女性は、その労働力率が30～34歳層をボトムとするM字型となっており、いったん労働市場から退出した後、育児期を経て再就職するパターンが多く、働き方に関する希望をみても、依然として再就職型を希望する者が最も多い。一方、男性は、その労働力率が50歳台まで一貫して9割台後半であり、継続就業型の者が圧倒的に多い。

しかし、女性の場合、職業能力が高いと思われる高学歴の女性ほど、労働市場から退出した後、育児期を経ても再就職する者が少ないが、潜在的労働力率をみると、高学歴女性の場合も、40歳台まで80%前後の高い水準を維持しており、就業の希望とその実態との間に大きな乖離がある状況にある。

以上のように、意欲や能力が高いと思われる女性が育児期を経ても労働市場に再参入できない状況にあるが、このような女性は、離職前に高い職業能力を身につけている場合が多く、一定の能力開発を行えば再びその能力を発揮することが可能であることから、これらの女性が本来の職業能力を取り戻し、それに見合った職場に再就職できるようにすることは、本人の職業生活の充実に資するのみならず、2005年以降労働力人口の減少が見込まれる中で、我が国における必要な人材を確保するという観点から喫緊の課題となっている。

3. 事業の具体的内容

(1) カムバック・カウンセリング技法及び能力開発プログラムの開発

再就職希望女性が能力発揮を望み、企業や社会のニーズも高い職業分野ごとに、再就職希望女性に対するキャリア・カウンセリング（カムバック・カウンセリング）の技法及び能力開発プログラムを開発する。

(2) モデル事業の実施

上記(1)で開発した技法を使ったカムバック・カウンセリング及び能力開発プログラムを活用した職業能力開発、職場体験を、事前に募集した、実際に再就職を希望する女性に対してモデル的に実施する。

(3) 追跡調査の実施

上記(2)により再就職した者の再就職後の状況の追跡調査を行う（前年度分野）。

(4) 相談等への対応

上記(2)により再就職した者やそれらの者を雇用した企業からの相談に対応するなどの支援を実施する。

(5) セミナーの開催

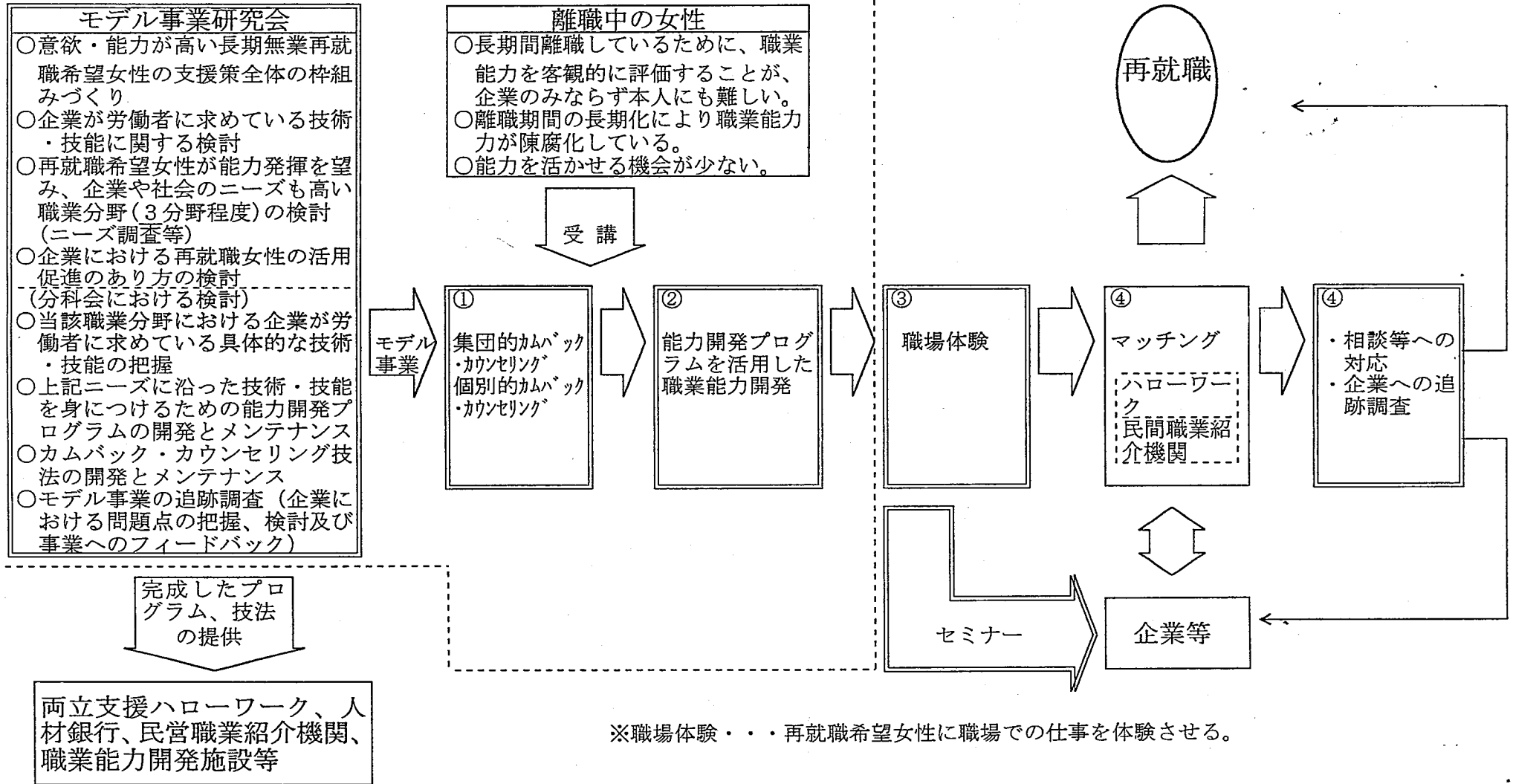
再就職希望女性の職業能力レベル、再就職女性を雇用する場合の留意点、再就職女性を活用している企業の事例等を内容とした企業向けのセミナーを開催することにより、それらの女性の企業における活用の促進を図る。

4. 委託先 (財) 女性労働協会

5. 委託期間 平成13年度～平成16年度（予定）

ポジティブ・アクションとしての再就職モデル開発事業のイメージ

1分野につき2年度で実施
(初年度) (次年度)



※職場体験・・・再就職希望女性に職場での仕事を体験させる。

※※ 二重線部分が今回の事業の内容

再就職支援の全国展開

ポジティブ・アクションとしての再就職モデル開発事業スケジュール

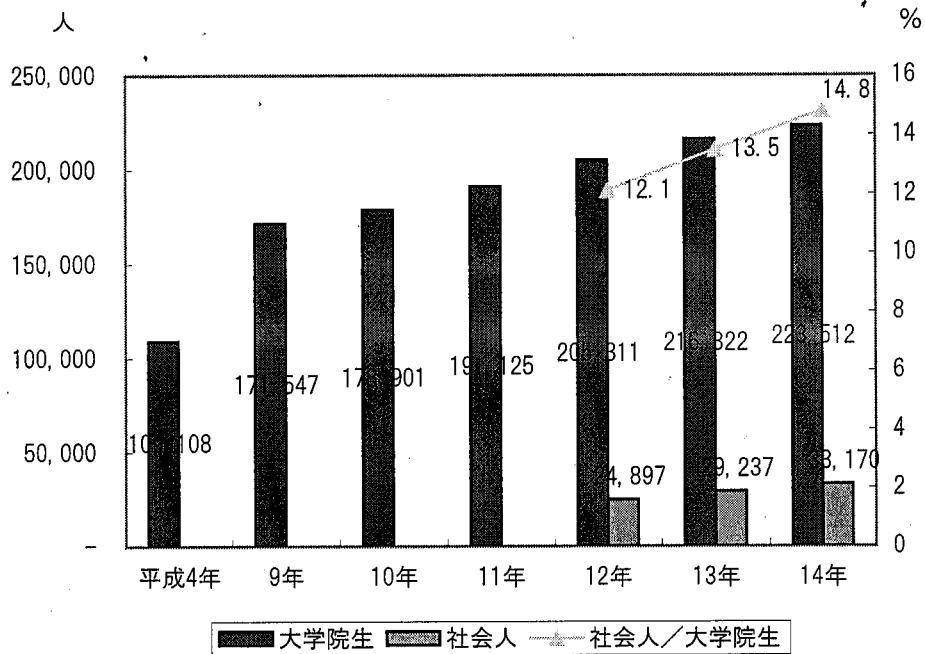
(15年度以降は予定)

	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	
全 体	<p>→</p> <p>（ 枠組み全体の検討 ）</p> <p>（ ニーズ調査 ）</p>	<p>→</p> <p>追跡調査 のフィードバック</p>	<p>→</p> <p>セ ミ ナ ー の 実 施</p>	<p>→</p> <p>相 談 等 へ の 対 応</p>		
情報関連	<p>→</p> <p>①カウンセリング②カウンセリング、 技法及び能力開発 プログラムの開発</p>	<p>→</p> <p>能力開発、職場体験③追跡調査・メンテ</p>				
第二分野		<p>① → ②</p> <p>同 上</p>	<p>③</p>			
第三分野			<p>① → ②</p> <p>同 上</p>	<p>③</p>		

(注) カウンセリングには、集団カウンセリング、個別カウンセリングが含まれる。
 なお、14年度以降の2分野の正式な選定は研究会で行われる。

大学院への社会人の受入れ割合は増加傾向にある。

資料16 大学院生に占める社会人数及び割合



(注) 平成14年は速報値である。
資料出所：文部科学省「学校基本調査」